
推薦のことば

本書は、行田克則氏の長年の臨床経験をまとめた、いわば氏の集大成である。収載されている100症例はどれも長期に経過しているものばかりで、なるほど、書名通りアーカイブ、つまり記録庫のように感じられる。特筆すべきは処置歯の抜歯本数の少なさで、まさに驚嘆の一語に尽きる。歯科界にとって、貴重な一冊が上梓されたといえよう。

頁を繰ってみると、なかには治療過程で失敗した症例も含まれており、いかにも正直に臨床と対峙してきた行田氏らしさが垣間見える。

行田氏自身も書中で幾度か触れているように、定期的なメンテナンスが長期にわたって良好な予後へと繋がることは間違いない。それには患者とのラポールの形成が不可欠である。とかく技術的な面ばかりに目を奪われがちであるが、常に患者のことを思い、その声に傾聴していく姿勢がいかに大切であるかを、本書は教えてくれている。

行田氏は臨床家として華々しく活躍する一方で、実は基礎系の研究も続けている。それは、科学的根拠に基づいて臨床を実践していくことがいかに大切かを理解し、今後の歯科界の発展において、基礎と臨床が両輪として互いに補完していくことが不可欠であると捉えているからに他ならない。

若い臨床家にはもちろん、中堅、ベテランの諸先生方にも、ぜひ本書を手にとっていただきたい。そこには、真摯に患者に向き合う手本とすべき臨床家の姿が、ある。

2015年3月

日本大学学長 大塚吉兵衛
